

2023年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年10月13日

上場会社名 株式会社ネクスグループ 上場取引所 東
 コード番号 6634 URL <https://ncxxgroup.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 直樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部本部長 (氏名) 齊藤 洋介 (TEL) 03-5766-9870
 四半期報告書提出予定日 2023年10月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年11月期第3四半期の連結業績(2022年12月1日～2023年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年11月期第3四半期	532	△78.2	△167	-	△126	-	7	△97.0
2022年11月期第3四半期	2,441	△26.8	432	-	528	-	235	27.0

(注) 包括利益 2023年11月期第3四半期 △184百万円(-%) 2022年11月期第3四半期 △5百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年11月期第3四半期	0.26	-
2022年11月期第3四半期	10.42	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年11月期第3四半期	3,285	3,118	94.8
2022年11月期	3,534	3,307	93.3

(参考) 自己資本 2023年11月期第3四半期 3,114百万円 2022年11月期 3,299百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年11月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年11月期	-	0.00	-	-	-
2023年11月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年11月期の連結業績予想(2022年12月1日～2023年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,467	△46.8	146	△65.7	165	△68.8	142	△82.3	5.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年11月期3Q	27,301,871株	2022年11月期	27,301,871株
② 期末自己株式数	2023年11月期3Q	125,816株	2022年11月期	125,816株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年11月期3Q	27,176,055株	2022年11月期3Q	22,629,439株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料や記載した当期の業績予想につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。予想に内在する様々な不確定要因や今後の事業運営における内外の状況の変化等により、実際の業績と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、円安傾向の継続やロシア・ウクライナ情勢に起因する資源・原材料価格の高騰など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような事業環境において、2023年3月に公開しました、暗号資産「ネクスコイン（以下「NCXC」）」のGameFi^{*1}領域での活用に、当社は現在注力しており、その取り組みの一環として、NCXC GameFiプラットフォーム（仮）の開発が進捗しております。

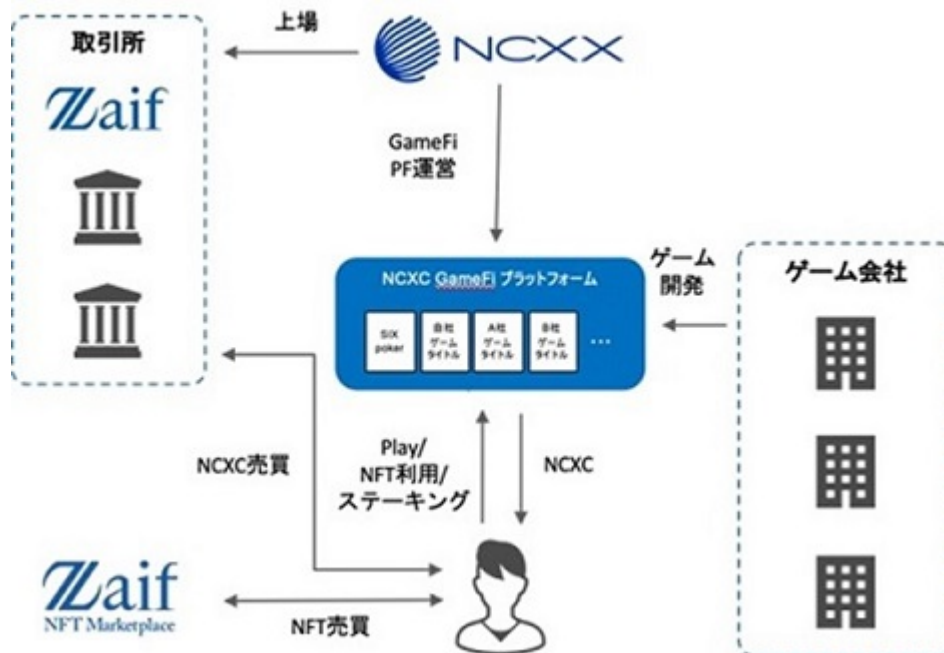
*1 GameFiとは、ゲームをプレイすることでプレイヤーがトークンなどの経済的インセンティブを獲得できる「Play to Earn」（プレイ・トゥ・アーン）のブロックチェーンゲームを指します。

NCXC GameFiプラットフォームでは、ゲーム性の高いハイパーカジュアルゲームを中心に、これらのゲームを簡単にPlay to Earnのゲームに転換することのできるシステムを提供します。

このシステムにより、ゲーム開発者は世の中に溢れている高品質なゲームをGameFiに転用し、プラットフォーム上に掲載することができます。

ゲーム開発者は過去に開発したゲームを簡単にGameFiに転用することで、ゲームに新たな魅力を与えるとともにユーザーを呼び込むことができます。

プラットフォーム上のゲームはカジュアルゲームと呼ばれる気軽にプレイできるゲームが中心であり、高額なNFTを購入することなくゲームを楽しみ、プラットフォーム上でたくさんのカジュアルゲームが提供されることで、従来のGameFiやブロックチェーンに慣れていないユーザーでも、飽きることなく、日々のちょっとした余暇時間を、NCXCを獲得しながら楽しむことができます。



NCXC GameFi プラットフォームの概要

また、2023年7月には、NCXCのGameFiプラットフォームでのユーザビリティの向上と、GameFi分野での革新的な利用を推進するために、NCXCのPolygonチェーン対応の開発に着手しました。

Polygonチェーンは、高速かつ低コストのトランザクションを実現するオープンソースのスケラブルなブロックチェーンプラットフォームです。

ユーザーはこれにより、従来のイーサリアムチェーンよりも迅速かつ効率的にNCXCの取引やNFTなどの交換を行うことができるようになります。

さらに、GameFiプラットフォームの利用手数料低減や手数料無料キャンペーンの実施などによりユーザーに優しい施策が可能となり、非GameFiユーザーを取り込み日本のGameFiを活性化させるというGameFiプラットフォームのビジョン達成に近づく施策となります。



上記の結果、売上高においては、532百万円(対前期比78.2%減)となりました。それに伴い、営業損失は167百万円(前期は営業利益432百万円)、経常損失は126百万円(前期は経常利益528百万円)、税金等調整前四半期純利益は13百万円(対前期比94.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は7百万円(対前期比97.0%減)となりました。

前期に比べ売上及び各利益額が減少している理由につきましては、前期の第1四半期におきまして実施した「事業構造改革」の不採算事業の譲渡を行うにあたり、子会社の借入金の精算のため保有する暗号資産の一部を売却してキャッシュ化を行い、その際の暗号資産売却益を計上しているためです。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントごとの業績は以下のとおりであります。

なお、前連結会計年度における「インターネット旅行事業」及び「ブランドリテールプラットフォーム事業」からの事業撤退により、当社グループの報告セグメントは第1四半期連結会計期間から「IoT関連事業」「メタバース・デジタルコンテンツ事業」「暗号資産・ブロックチェーン事業」及び「その他」の4区分となりました。

詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」に記載しております。

(メタバース・デジタルコンテンツ事業)

持分法適用関連会社の株式会社ワイルドマンでは、VR上のアバターを操作するためのメタバースユーザー向けワイヤレス・モーション・トラッキング装置の開発案件と、VRゲームの自社コンテンツの開発が進捗しております。

株式会社実業之日本デジタル(以下「実日デジタル」)は、株式会社実業之日本社(以下「実業之日本社」)の刊行するコンテンツをデジタル化して配信する事業を行っており、いわゆる電子書店(電子書籍配信サイト、Web漫画サイト、漫画アプリ、雑誌読み放題サイトなど)及び電子取次、オーディオブック書店などが主な取引先となります。

実日デジタルでは、主力作品である『静かなるドン』(新田たつお作画)を、漫画アプリを利用されていない新たな読者層の獲得を目的として、漫画の各コマを再編集し効果音とセリフを入れ動画化する「ボイスコミック」という手法でYouTube公式チャンネルを7月1日にリリースいたしました。9月19日時点でチャンネル登録者数39,911人、動画再生総数9,217,721回と好調な滑り出しとなっており、現在は週3回の更新となりますが、状況を見つつ更新回数を増やしさらなる拡大を図ってまいります。

また、株式会社集英社とのコラボレーションにより、5月17日発売の『グランドジャンプ』(集英社発行)から『静かなるドン-もうひとつの最終章-』の連載が開始されました。それにあわせて、各電子書店で実施した大型キャンペーンの効果により8月度は4百万円を超える売上を達成いたしました。今後も『静かなるドン』については、さらなる売り伸ばし施策の実施と、新規読者獲得の2軸を進めてまいります。

さらに、既刊本の売上の底上げを目指し、文芸作品を中心とした作品をAmazonの電子版読み放題サービス『Kindle Unlimited』への投入を8月より増やしました。2021年に刊行した『硝子の塔の殺人』(知念実希人著)はAmazonで販売されている全電子本の販売ランキングで24位(9月7日実績)になるなど、さっそく効果が出ております。

また、『さくら聖・咲く 佐倉聖の事件簿』(畠中恵著)が、当社として3作品目となるAudible月間TOP30ランキング(8月実績)にてランキング入りするなど、オーディオブックも好調に推移しており、今後も電子版に限らず、様々なフォーマットで当社コンテンツの配信を行ってまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は110百万円(対前期比105.0%増)、営業損失は1百万円(前期は営業損失7百万円)となりました。

(IoT関連事業)

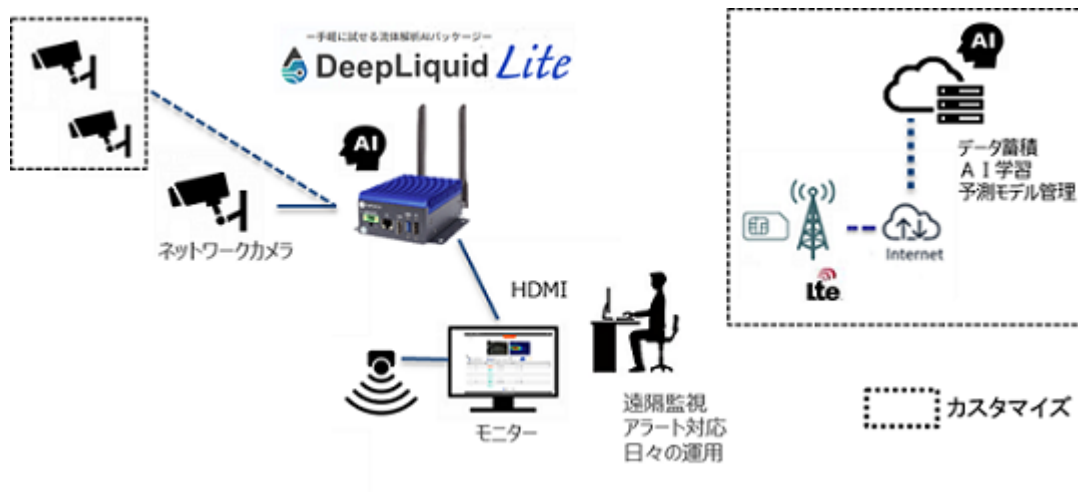
株式会社ネクスは、培ってきた自動車テレマティクスをはじめとする様々な分野に対するIoT技術をベースに「IoT×ブロックチェーン技術」、「IoT×AI技術」など、「IoT×新技術」を活用した新たなサービスの提供を目指しております。

AIコンピューティングの分野で様々なプラットフォームを提供しているNVIDIA Corporationが提供するGPU（画像処理やディープラーニングに不可欠な並列演算処理を行う演算装置）を利用したリアルタイム画像認識技術と、マルチキャリア対応の高速モバイル通信技術を搭載したNCXX AI BOX「AIX-01NX」は、AIプラットフォームのエッジ端末認定やAI開発ベンダーとのAIソフトウェア搭載検証、分析やシミュレーションによる効率的なモノ作りから都市レベルの課題解決まで、用途もますます拡大していくことが期待されるデジタルツインへの活用、および各通信事業者の動作確認済端末認定を進めております。

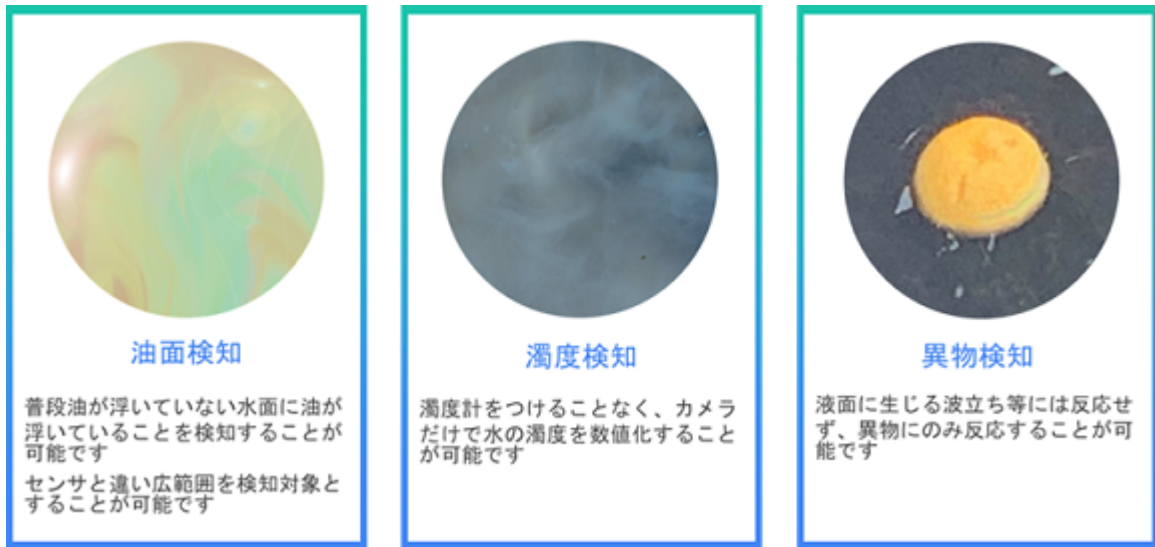


NCXX AI BOX「AIX-01NX」

活用の一つである流体解析ソリューションにつきましては、水処理場、排水ピットなどでの油面検知や濁度検知、異物検知など、エッジAIコンピュータと流体解析AIをパッケージにした「流体解析AIパッケージ」をAnyTech株式会社と共同で開発し、販売を開始いたしました。従来のAIでは「異常データ」を大量に蓄積し学習させる必要があるなどAI構築までに障壁が多く、断念するケースが多く見られましたが、本パッケージでは、ベースとなるAIモデルを用意することで、正常データを少量用意するところから利用を開始することが可能です。



「流体解析AIパッケージ」利用イメージ



「流体解析AIパッケージ」検知例

1台でカメラ・センサーなどからの情報をリアルタイムにAI分析して分析結果を安定した通信性能でクラウドに連携することが可能な製品となっており、リテールテック、製造業、セキュリティ、介護見守り、測定・異常監視などの幅広い分野で活用が期待される技術であり、今後もこれらの技術をデバイス事業の新たな製品開発に活用してまいります。

データ通信端末につきましては、第5世代移动通信システムである5Gに対応し、Wi-Fi、Ethernetを搭載したバッテリーレスのルーター・モデムとなる、5Gデータ端末「UNX-05G」を販売しております。「UNX-05G」は、KDDI IOTの認証を取得し、富士通株式会社が提供するローカル5Gスタンドアロンシステム Fujitsu Network PW300との接続検証済製品として認定されており、2023年8月には、日本電気株式会社（NEC）が提供するローカル5G Sub6一体型基地局 UNIVERGE RV1200との「接続検証済端末」として認定されました。

引き続き、ローカル5Gを含む各通信事業者との相互接続性試験を並行して実施しており、認証取得状況については順次お知らせしてまいります。



5Gデータ端末「UNX-05G」

テレマティクスにつきましては、OBD II型データ収集ユニット「GX700NC」が市場を確保しております。さらに、排気ガス測定・管理や今後増加するEV車の充電・電費・残量管理などの取得項目の追加案件も増加しており、SDGsへの取り組みなどにも活用の範囲が広がることが期待されます。

農業ICT事業（NCXX FARM）では、スーパーフードとして人気の高いGOLDEN BERRY（食用ほおずき）の生産、加工、販売を行う「6次産業化事業」と、特許農法による「化学的土壌マネジメント」+ICTシステムによる「デジタル管

理」のパッケージ販売を行う「フランチャイズ事業」の事業化を推進しております。

「6次産業化事業」では、新商品として青果の規格外品を活用したセミドライゴールデンベリーの販売を8月より開始しております。この商品はゴールデンベリーをカットして乾燥させることで、風味と栄養が凝縮され、セミドライ加工のため通常のドライフルーツよりも水分量が多く、柔らかい仕上がりとなっており、そのままでも、またサラダやヨーグルトなどにもトッピングできる品となっております。



セミドライゴールデンベリー

「フランチャイズ事業」では、自社試験圃場での栽培実績をもとに、自社独自の特許農法（多段式ポット）とICTシステムの提供に加えて、お客様の要望に沿った多種多様な農法・システム・農業関連製品の提供を行う農業総合コンサルティングサービスを展開しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は329百万円(対前期比17.1%減)、営業利益は6百万円(前期は営業損失11百万円)となりました。

(暗号資産・ブロックチェーン事業)

本事業では、NCXCを利用したサービスの向上、NCXCの流通促進、NCXC保有者の拡大を通じたNCXC経済圏の拡大を目指し、価値向上に向けた取り組みを行っております。

NCXC GameFiプラットフォームの開発を行い、ゲーム会社とのアライアンスにより、世の中で既に実績を上げている他社ゲームタイトルを中心に、これらを簡単にPlay to Earnのゲームに転換することのできるプラットフォームサービスの提供を目指します。

また、暗号資産市場の動向と資金効率を踏まえた暗号資産の安定的な運用を行ってまいります。当期は暗号資産の一部売却を行ったことで、営業利益を計上しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は60百万円(対前期比92.3%減)、営業利益は32百万円(対前期比95.9%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、249百万円減少し、3,285百万円となりました。

この主な要因は、現金及び預金が116百万円増加、仕掛品が168百万円増加したものの、受取手形、売掛金及び契約資産が211百万円減少、のれんが73百万円減少、投資有価証券が386百万円減少したことによりです。

(負債)

負債の残高は、前連結会計年度末と比較して、60百万円減少し、166百万円となりました。

この主な要因は、支払手形及び買掛金が36百万円増加したものの、借入金^{*2}が62百万円減少、未払費用が25百万円減少したことによります。

*2 短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金残高の合計です。

(純資産)

純資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、188百万円減少し、3,118百万円となりました。

この主な要因は、利益剰余金が7百万円増加、その他有価証券評価差額金が197百万円減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年1月18日の「2022年11月期 決算短信」から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	508,962	625,061
受取手形、売掛金及び契約資産	296,469	84,986
商品及び製品	7,547	6,700
仕掛品	407,989	576,457
原材料及び貯蔵品	969	-
暗号資産	53,125	103,615
その他	45,580	69,839
流動資産合計	1,320,645	1,466,660
固定資産		
有形固定資産	122,315	160,256
無形固定資産		
ソフトウェア	8,469	6,975
のれん	905,084	831,698
その他	223	26,898
無形固定資産合計	913,776	865,573
投資その他の資産		
投資有価証券	1,133,585	747,305
繰延税金資産	13,503	14,089
その他	30,928	31,364
投資その他の資産合計	1,178,017	792,760
固定資産合計	2,214,110	1,818,590
資産合計	3,534,756	3,285,251
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	37,720	73,984
短期借入金	50,450	-
1年内返済予定の長期借入金	16,672	15,174
未払費用	41,324	15,956
未払法人税等	6,694	9,178
製品保証引当金	20,000	15,000
その他	35,036	27,627
流動負債合計	207,898	156,920
固定負債		
長期借入金	11,000	-
繰延税金負債	-	73
持分法適用に伴う負債	-	1,859
その他	8,436	7,899
固定負債合計	19,436	9,831
負債合計	227,334	166,752

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	4,776,703	4,776,703
利益剰余金	△1,104,622	△1,097,548
自己株式	△66,515	△66,515
株主資本合計	3,615,565	3,622,640
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△309,858	△507,297
繰延ヘッジ損益	△6,030	△511
その他の包括利益累計額合計	△315,889	△507,808
新株予約権	7,745	3,668
純資産合計	3,307,421	3,118,499
負債純資産合計	3,534,756	3,285,251

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
売上高	2,441,160	532,658
売上原価	876,057	259,236
売上総利益	1,565,103	273,422
販売費及び一般管理費	1,132,837	441,321
営業利益又は営業損失(△)	432,265	△167,899
営業外収益		
受取利息	1,620	656
受取配当金	18,997	18,997
暗号資産売却益	-	16,984
その他	101,240	11,338
営業外収益合計	121,858	47,976
営業外費用		
支払利息	8,183	758
持分法による投資損失	176	4,819
その他	17,369	1,039
営業外費用合計	25,729	6,618
経常利益又は経常損失(△)	528,394	△126,541
特別利益		
固定資産売却益	451	-
投資有価証券売却益	99,878	134,633
その他	28,833	7,745
特別利益合計	129,163	142,378
特別損失		
投資有価証券評価損	-	2,026
その他	403,816	-
特別損失合計	403,816	2,026
税金等調整前四半期純利益	253,741	13,810
法人税、住民税及び事業税	20,987	6,736
法人税等調整額	990	-
法人税等合計	21,977	6,736
四半期純利益	231,763	7,074
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,967	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	235,731	7,074

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
四半期純利益	231,763	7,074
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△256,629	△197,438
繰延ヘッジ損益	△1,281	5,519
為替換算調整勘定	20,152	-
その他の包括利益合計	△237,758	△191,919
四半期包括利益	△5,994	△184,845
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,027	△184,845
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,967	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定につきましては、前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した内容から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期 連結 財務諸表 計上額
	IoT関連 事業	インター ネット 旅行事業	メタバース ・デジタル コンテンツ 事業	ブランド リテール プラット フォーム 事業	暗号資産 ・ブロック チェーン 事業	その他	計		
売上高									
顧客との契約から生じる収益	397,033	100,483	53,839	1,074,401	787,438	27,963	2,441,160	—	2,441,160
外部顧客への売上高	397,033	100,483	53,839	1,074,401	787,438	27,963	2,441,160	—	2,441,160
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,500	—	—	71	—	—	7,571	△7,571	—
計	404,533	100,483	53,839	1,074,473	787,438	27,963	2,448,732	△7,571	2,441,160
セグメント利益又は損失(△)	△11,195	△21,298	△7,665	△107,103	787,110	7,426	647,274	△215,008	432,265

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期 連結 財務諸表 計上額
	IoT関連 事業	メタバース ・デジタル コンテンツ 事業	暗号資産 ・ブロック チェーン 事業	その他	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	329,320	110,381	60,626	32,329	532,658	—	532,658
外部顧客への売上高	329,320	110,381	60,626	32,329	532,658	—	532,658
セグメント間の内部売上高又は振替高	18,000	—	—	199	18,199	△18,199	—
計	347,320	110,381	60,626	32,529	550,857	△18,199	532,658
セグメント利益又は損失(△)	6,744	△1,699	32,221	△3,657	33,608	△201,508	△167,899

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において「インターネット旅行事業」及び「ブランドリテールプラットフォーム事業」から事業撤退しております。これにより、当社グループの報告セグメントは第1四半期連結会計期間から「IoT関連事業」「メタバース・デジタルコンテンツ事業」「暗号資産・ブロックチェーン事業」及び「その他」の4区分となりました。